

# 新春経済講演会

2009年日本経済のゆくえ～大変な時代～

1月30日午後1時30分より舞鶴市商工観光センターにおいて新春経済講演会を開催しました。(株)商工組合中央金庫相談役で元国税庁長官の大武健一郎氏をお招きし、現在の世界的な経済危機の中で、日本がおかれている経済環境と対応の仕方について約200名の来場者を前に講演していただきました。



商工組合中央金庫相談役 大武健一郎氏

## <変化への対応を求めない人間>

今年のテーマに、あえて「大変な時代」と書いたのは、日本はこれから本当に大きな変化が一举に起こってくると思うからです。しかし、逆に日本にとってチャンスでもあるのです。人間は変化をあまり望まない生物ですが今まさに変化の時代であるが故に、その変化に自分がどう対応するかということが本当は一番重要なことです。

## <グローバル化と高齢化がもたらしたもの>

日本は米ソ冷戦の影響でアメリカの一部のような国でしたが、全く違う国になりました。

ひとつはグローバル化であり、もうひとつが急激に進んでいる高齢化という変化です。

もうひとつは、まさに「省資源、省エネルギー」が求められ、環境の制約ということが顕在化してきていることです。

## <進化する金融工学がもたらした金融破綻>

時代と共に発展した金融工学は、素晴らしい技術ですが、実は極めて怖いものです。なぜなら、金融工学の一つであるデリバティブという先物取引に関する世界の悲劇は、この金融工学の過信と、運用のずさんさによるものなのです。

2000年の後半ぐらいから、アメリカの経済成長力はもう止まっていました。しかし、地価の上昇を過信して、土地を担保にまた消費者ローンを組むやり方を低所得者層でも行っていたものですから、個人消費が続伸していったのです。

ところが、サブプライムローンという、この低所得者向け住宅ローンが結局は返済できないことが露呈し、バブル崩壊のスタートになり更にこのローンを組み込んだ不動産証券は世界中に売られており、アメリカの金融破綻の影響が世界中に広まったということです。

## <日本の輸出産業のダメージ>

今回のアメリカ発の金融危機と従来の日本の金融危機は全く別物だということを知っておいて下さい。日本の場合、金融は破綻したのですが、個人の家計は破綻していません。ところが今日のアメリカは、個人の家計破綻に始まり、企業も国も全部赤字になったため、再起が難しいという大きな理由があります。

今、アメリカの消費が落ち込んでいますが、長くても1年か2年かからないくらいで終わると思います。特に輸出産業のダメージは今の段階でいうと、実は、1年程度で立ち直る可能性が高いのです。だからこそ日本の円はドルに比べて下がっていない、むしろ円高になっている唯一の国といってもいい。それは一つには日本が大量の外貨準備を保持していることと、日本が外国投資を引き受けていなかったからです。

もう一つ、これは日本人ならぜひ知っておいて下さい。世界は決して、日本の経済力は弱くないことを知っているからです。

## <基軸通貨ドルの破綻とプラザ合意>

これが重要なのですが、このドルという基軸通貨が破綻したことが問題なのです。もともと基軸通貨は金でした。

ところが、その後の世界経済の発展に合わせて金が増えることがなかったため、金に兌換できなくなり、アメリカは、ドルと金の連携を切ったのです。

このまま行って、次の金融危機の第2幕は世界が安定した時、またその頃から本格的にドル安が始まる危険性があるのです。

しかしドルが下がることは、安定した経済を守る上で絶対に防ぐ必要がある。これが2番目のこれからの問題です。

## <競争力を失ったアメリカ経済>

そして最後の問題、これが一番深刻なのです。アメリカ経済は、もはや競争力がないのではないかという意味です。

今のアメリカは、最大の利益を上げることにつつととして、自分で、研究開発やリスクをとらずにM&Aが多いのです。

そのことを考えるとアメリカには、もはや軍事産業しか残っておらず、軍民転換政策はできません。

これに関連して思うのは、日本は平和国家であってはじめて生き残れるということです。

軍事競争の中に入れば、ものづくり国家は成り立ちません。日本はどんな時でもやはり物をつくる大国であるべきです。

ものづくりに関しては絶対負けません。このすごい技術力がアジアの中で尊敬されているのです。

## <アジアの中で発展を目指す日本経済>

これからの日本はアジアの発展を活かさざるを得ません。日本は人口がもう増えないのです。しかし、このものづくりの能力をアジアに広げれば、いくらでも物は売れます。

そういう意味では市場を広く考え、自分の特技を磨いていけば、多少時間はかかっても日本が輝く時代は確実に来ます。

皆さんが築いてきた技術は、世界の中で劣っていることは絶対にありません。この大変な時代に大いに元気を出して頑張ってください。



熱心に耳を傾ける来場者